

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27 年 10 月15 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100272		
法人名	社会福祉法人可部大文字会		
事業所名	グループホームH a n a m i z u k i		
所在地	広島県広島市安佐北区可部南3丁目10番22号 電話（082）815－2199		
自己評価作成日	平成27年9月5日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3490100272-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島市安佐北区口田南4－46－9
訪問調査日	平成27年10月15日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

平成22年8月に開設し、当初より地域ボランティアとの繋がりを何よりも大切にしている事業所です。地域の方から持ち込まれた季節に合わせた絵画をフロアに展示したり、傾聴ボランティアには定期的に來設いただいたり、楽器演奏会や幼稚園児の訪問等、入居者様の憩いの時間となっております。ハード面においては、1階から3階まで吹き抜けと、3階には展望浴場、屋上にはエコに配慮した緑化スペースを設けています。散策やイベントの場として利用しております。ソフト面においては、認知症ケア専門士を中心とし、施設内外の研修を法人年間計画に基づいて実施しております。その他、外部研修や法人全体で介護知識、技術の向上を目指し職員の質の向上に力を注いでおります。また、当施設では、入居者様自身のニーズに応え、出来る事、したい事、季節を感じながら施設外散歩や地域参加を行い、個別ケアに取り組んでおります。その他、他施設との交流により、情報を共有するネットワーク作りの構築を進めております。防災害対策に特に力を入れており、近隣地域と防災協定を締結しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホームHanamizukiは、建物は鉄筋3階建てで、屋上スペースにはイベント広場がある。又、JR可部線の中島駅から徒歩10分、近くにバス停もあり、利便性がある。周りは、山や川があり、閑静な住宅街で畑も点在し、四季を感じさせる環境がある。ホームでは、管理者を中心に利用者一人ひとりに寄り添い把握して、本人の「できること」を大切に介護を心掛けておられる。特に運動機能を低下させないよう散歩は欠かせない。雨の日等は、回廊を利用して、みんなと一緒に歩く。食事は、管理栄養士が、メニューを作成し、職員の手作りで、利用者も一緒に和気あいあいと出来る場所を手伝う。隣接した同法人の施設と合同で、年2回、消防訓練が行われ、はしご車による放水したり等、積極的に取り組まれており、近隣地域と防災協定を締結している。

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ユニットごとに法人理念を掲示して毎日、朝礼時に職員で理念の唱和をしている。また、年間目標に基づいて、月間、週間目標を決め、職員の意識の統一をおこなっている。	法人の理念である《「山まゆ糸」のような光輝く最高の人生を送られることを、心から願って。》を毎日、朝礼時に職員皆で唱和し、理念を共有して実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域からの行事参加や呼びかけには積極的に応じている。地域からのボランティアの受け入れや絵画の展示を行っている。	地域から、傾聴ボランティア、琴の演奏、朗読、、夏まつり、近隣大学の桜まつりの参加、地域の秋まつり等、積極的に地域と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域住民へ向けての認知症研修会や認知症サポーター養成講座の講師、介護職員初任者研修の講師等を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議においては、年に数回、他のグループホームと合同で会議を行い、多様な話し合いが行われている。その後、施設内において報告、検討をするなどし、サービスの向上に努めている。	運営推進会議は、2ヶ月に1回、包括支援センター、区担当者、民生委員、知見者、家族代表、管理者が出席し開催されている。会議では利用者の生活の様子や苦情・事故報告、行事・外出の報告をしている他、意見交換し、検討してサービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	区担当者だけでなく、広島市担当者への問い合わせ等も必要があれば、その都度連絡をとるようにしている。広島市担当者の運営推進会議の出席もある。	管理者は、市担当者と制度改正等の問い合わせや運営推進会議に出席してもらい、ホームの現状を説明している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止研修の実施や委員会の活動にて、身体拘束の理解を深めている。玄関には防犯の為、電子錠を使用しているが、ご家族やご来訪の方が自由に押せる位置に開錠ボタンを位置させており、どなたも気軽にボタンを押して頂いている。	年間研修計画に沿って身体拘束廃止についての研修を行っていて、職員は、認識を高め理解を深めるようにしている。現在身体拘束実施のケースはない。常に身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待について、法令に基づいたマニュアルを置き、また研修会を実施し、高齢者虐待について職員間で話し合う場を設けている。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者と委員会を中心に職員のレベルに応じた研修を行っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所に係る面接時等、また入所後も随時、入居者様、家族様からの意向を伺い、対応を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情解決に係る整備を行い、いつでも苦情を受け付け、解決に向け体制を整えている。	職員は、家族がホームを訪問された時やサービス担当者会議に参加された時等に家族の意向を聞いたり、利用者の日常において思いをくみ取り車椅子の工夫をしたり、食事のバランス等検討しサービスの改善・向上に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	フロア会議を中心として意見を聞くこととし、各提案について積極的に意見交換を行っている。また、月に1回法人本部で行われている推進会議の内容を各職員に伝えている。	管理者は、職員が日頃から言えるような関係作りを心掛けており、又、フロア会議にて積極的に意見交換をし(腰痛対策としてベットの高さを検討したり等)出た要望に対して対応している。	利用者の身体が段々と重度化してくるので、入浴介助にリフトを導入するよう検討している。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	メンタルヘルスにも力を入れ、職員間の個々の思いを汲み取る様に努めている。外部のメンタルヘルスに関する情報の提供や法人全体で研修を実施している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	介護職員初任者研修、介護福祉士、介護支援専門員へのスキルアップ等を積極的に支援している。また、年間計画に基づいた施設内研修を行うとともに、施設外研修の参加も勧めている。資格取得におけるサポートも行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他のグループホームとの交流や合同の行事参加もあるなど、職員間の交流があり、相互に情報交換を行い、サービスの質の向上を互いに目指している。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	個々の入居者様との対話を大切にし、入居者様が何に不安を抱いていて、何を求めているかを常に聞くと共に、職員間で情報を共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族様からの要望や困り事などは、積極的に話し合いを行い、入居者様だけでなく、家族様を含めてのメンタルケア等を行うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	どの様なサービスを求められているのかを見極め、必要とされるサービスが事業所で提供できるかを常に検討しながら相談にのっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	人間対人間の温かい関係作りを行い、入居様と職員の間に、なじみの関係を築き、入居者様も家族の一員であると常に考えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族様からの意見を率直に伺うとともに、常に連携し、入居者様にとって何が一番良いかを常に念頭に置いて関わっている。また毎月、家族様へ本人の状態や希望を手紙で報告している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	一人ひとりが馴染みの人や場所との関係が途切れない様に配慮している。地域の公園への散歩や買い物など、また知人への手紙のやりとりや、家族との外食や外出等を支援している。	利用者がこれまで馴染みにしていた理髪店・美容院や古き友人の訪問等、途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様同士の関係を把握し、孤立しないように言葉掛けや会話で誘導し、レクリエーションや日常生活で関わり合いを持っていただくようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所された入居者様、家族様の来訪もあり、相談も継続的に随時行っている。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中での会話、行動、表情から入居者様の思いを汲み取り、またサービス担当者会議において家族様と情報交換を行っている。	利用者一人ひとりの気持ちを把握するため、今までの生活歴や日常の会話や様子などから、思いや意向をくみ取るよう努めている。例えば、編み物・裁縫・読書・新聞を読む等、本人本位で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	面接時に本人の生活歴、生活習慣、環境を聞き、把握に努めている。また、家族様に協力していただき、聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	介護記録、食事摂取量、排泄記録、与薬、バイタルサインチェックなどで把握し、主治医や看護師と共に現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	入居者様、家族様、職員間との話し合いにより、意向を反映した介護計画を作成している。また、月に1度、モニタリングをおこない、ケアプランの見直しをしている。	一人ひとりのケアプランについて、包括的自立支援プランのケアチェック表に基づき、利用者・家族の意見や要望を聞き、そして、職員間から出た意見を反映させ介護計画を作成し、プランに沿った支援に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	6ヶ月に1度、定期的な見直し、及び状態の変化に応じて、随時の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	入居者様や家族様の要望に応じ、受診時の送迎や買い物等の外出希望時等、柔軟な対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	入居者様の意向や必要性に応じ、地域の方とのふれあいや行事の参加を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	内科、歯科医師の往診体制が整っており、ご本人様が希望する病院等も含め、急変時の連携も行っている。また、希望された場合には、協力病院の訪問診療を月に2回受ける事ができ、また各居室にはナースコールや、急変時にも迅速に対応できるよう、施設内に酸素吸入器を設置している。	かかりつけ医は、利用者や家族の意向を尊重し、受診してもらっている。協力医院の往診も月2回あり、健康管理には、十分配慮し、適切な医療を受けられるように支援している。	

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師との連絡体制が整っており、日常的に協力し、介護状況の報告、情報交換を行い、健康管理を支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して退院ができるよう、医師や看護師との情報交換や相談を行っている。家族様との連絡等、退院後の生活に向けての連携を行えるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	指針、マニュアルを整備し、チームケアの支援体制を整えており、重度化した場合において主治医と連携をしている。	利用者の重度化等の対応に係る指針について同意書をとっているが、本人や家族の希望・意向に変化があった場合、その意向に合わせ支援している。今まで、ホームにて看取った経験があり、職員はターミナルの研修を受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルを作成しているとともに、研修などで対応を学んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	マニュアルを作成しているとともに、安佐北消防局との連携により、消防訓練を行っている。また、災害時に備えての危険箇所の点検を行っている。また、地域と平成25年11月に防災協定を締結した。	消防署が立会いの下、年2回実施している。利用者と共に消火訓練や煙体験を行っていて、災害時には、避難施設として、近隣住民に開放している。地域との防災協定がある。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者様の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねる言葉掛け、対応はしていない。また、記録等の個人情報の取り扱いは慎重に行っている。	利用者本人の人格や権利を尊重し、落ち着いた声掛けをするよう職員は心掛けており、特にトイレ誘導・トイレ介助は、利用者のプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員は、入居者様が自己決定したり、希望を表出しやすくする事を大切に、それを促す等の取り組みを日常的に行っている。また、よく分かるよう、納得がいくよう説明をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者様のペースに合わせ、職員の都合により強制するのではなく、安心して過ごせるよう支援している。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	事業所内に定期的に美容師の方に来ていただき、利用者様の意向を聞きながら行っている。また、なじみの理美容室を希望された場合は、その都度出掛けられる支援を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者様のペースに合わせ、一緒に料理やおやつ準備をしたりしている。安全に配慮した見守りや言葉掛けを十分行っている。料理レクを実施することにより、イベント的に男女問わずに関われるように支援している。	食事は、職員の手作りで、野菜切り、盛り付け、配膳等、出来る場所を利用者と一緒に実施している。又、料理レクやおやつレクを実施する事で、食事が楽しみなものになるよう工夫している。(屋上でバーベキュー大会を企画したり、オムレツ作りレク、おはぎ作りレク、ぎょうざ作りレクをしている。)	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	管理栄養士による献立に基づき、栄養バランスのとれた食事、また季節を感じていただく食事を提供している。また、入居者様の食事摂取量を毎日チェックすると共に、1日1500ccの水分摂取を行っていただく様にしている。状態に応じた対応を随時行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後に毎回、歯磨きができる環境を整えるとともに、言葉掛けや見守りを行っている。異常があれば直ちに受診できる体制を整えている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	トイレでの排泄が継続できるよう支援している。また、自然排便への取り組みを実践している。	排泄チェック表を作成し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、支援している。又、出来るだけ自然排便に向けて、腹部マッサージ、水分補給、運動、食事に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	腹部マッサージ、散歩、腸動を促す食事の提供、水分摂取の促しなどにより、便秘の予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	一人ひとりの希望に応じて時間を調整したり、お好みの浴槽に入っていただく等、個々に応じた入浴の支援をしている。また、中止をした場合には、別日に入浴を勧めている。	利用者の希望・意思を尊重し、体調に応じて週3回を基本としているが、希望があれば対応している。身体状況に合わせた安心・安全な入浴が出来るように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	生活のリズムとして就寝時はパジャマに着替え、眠れない方には、温かい飲み物を提供しながら、お話を夜間の時間を過ごすなど、その時々状況に応じた対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員は、薬の目的や副作用について把握していくこととし、服薬の確認、体調の変化も記録し、医療機関、調剤薬局と連携している。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしています。	入居者様のレベルに応じて、個々の入居者様の希望を汲み取り、ケアプランを作成し、支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	入居者様の希望により、散歩に出掛けたり、買い物に出掛けたりしている。	天気の良い日は、毎日散歩している。時には、パン屋・手芸品店・日用品雑貨の買い物等に出掛けることもある。又、家族が法事、外食に連れ出したり、法人合同で誕生日会にも出かける。近隣大学の桜祭り、幼稚園の運動会等、行事にも参加している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居者様の状態により、お金のトラブルを防止するため、施設管理としているが、お金に関する不穏を招かないように希望に応じて財布を確認していただいたり、買い物に職員同伴で行く等の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者様の希望により、電話や手紙にて家族様へ連絡を行っていただいている。携帯電話を持たれている方もおられます。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間に吹き抜けがあり、自然の明かりを取り入れている。壁面にお便りや写真など、また入居者様が作成した作品を掲示している。また、季節の花を飾り、季節を感じられるようにしている。	玄関近くには、プランターが置かれ季節の花が、迎えてくれる。リビングには、テーブル。椅子が配置され、レクや作業の場所になる。観葉植物やベンチ（レスキューベンチになる）が置かれていたり、利用者と一緒に作成したちぎり絵等が飾られ、落ち着いた雰囲気が感じられて、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	談話室や面談室があり、入居者様の思いを汲めるような居場所作りをしている。入居者様の状態に応じた場所で過ごせるように配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室内に本人のタンスや慣れ親しんだ小物等も置かれ、家庭的な感じをそのまま居室に作りだすようにしている。また、扉やカーテンを工夫して過ごしやすい環境作りに力を入れている。	利用者本人と家族が相談しながら、使い慣れたタンス・机・家族写真・テレビ等を持ち込み本人が、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居者様のペースに配慮しながら、出来る事や出来そうな事を職員が見極め、すぐに介助に入るのではなく、残存機能を維持できるようなケアを含め、見守りを行っている。杖や歩行器の使用をするなど、歩くことへのサポート体制をとっている。手すり等の配置もしている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームHanamizuki

作成日 平成 27 年 10 月 15 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	11	職員の意見の反映が明確でない。議事録に発言者の名前が記載されていない。検討してどうなっているのか結果の記載がない。	会議議事の作成において、発言者名と検討事項の結果をふまえた内容を記載する。	各議事作成者が、誰が発言したかを加えた文章を作成し、検討事項も内容と結果を必ず記載する。	1ヶ月
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。